

ならしん景気動向調査レポート

(第4回) 2015年 4月期

奈良信用金庫 総合企画部 奈良県大和郡山市南郡山町529-6

TEL (0743-54-3116) URL <http://www.narashin.co.jp>

1. 調査期間…… 平成27年4月
2. 調査時点…… 平成27年4月 (前回調査 平成27年1月)
3. 調査対象…… 当金庫取引事業先
※対象先は任意に選定(毎年一部見直し)
4. 調査方法…… 往訪面談・電話等によるヒアリング調査
5. 回答状況

	対象先数	回答先数	回答率
製造業	34	34	100.0%
不動産業	16	16	100.0%
サービス業	9	9	100.0%
卸売・小売業	28	27	96.4%
建設業	14	14	100.0%
運輸業	8	8	100.0%
医療・福祉	11	11	100.0%
全業種合計	120	119	99.2%

当金庫でお取引をいただいている事業先から業種に偏りのないよう120社を任意に選定させていただき、最近の業況・資金繰り等、景気動向に関連するアンケート項目の聞き取りについて、ご協力をお願いいたしました。
うち、119社よりご回答を賜りました。

今回調査結果一覧

平成27年4月

全業種

	対象先数	回答先数	回答率	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI
				業況	売上金額	収益	資金繰り	前年同期比売上	前年同期比収益	残業時間	人材
製造業	34	34	100.0%	26.5%	47.1%	17.6%	20.6%	35.3%	29.4%	5.9%	11.8%
不動産業	16	16	100.0%	12.5%	18.8%	0.0%	12.5%	25.0%	6.3%	6.3%	6.3%
サービス業	9	9	100.0%	44.4%	33.3%	0.0%	44.4%	33.3%	-11.1%	0.0%	0.0%
卸売・小売業	28	27	96.4%	-22.2%	-11.1%	-18.5%	0.0%	-25.9%	-7.4%	14.8%	7.4%
建設業	14	14	100.0%	28.6%	28.6%	7.1%	28.6%	14.3%	35.7%	0.0%	-14.3%
運輸業	8	8	100.0%	37.5%	62.5%	50.0%	50.0%	62.5%	62.5%	12.5%	-12.5%
医療・福祉	11	11	100.0%	36.4%	45.5%	0.0%	0.0%	45.5%	9.1%	0.0%	0.0%
全業種合計	120	119	99.2%	16.8%	27.7%	10.9%	17.6%	20.2%	16.0%	6.7%	3.4%

	借入実施		設備投資実施			
	あり	なし	あり	なし		
製造業	25	7	7	25		
不動産業	8	6	2	13		
サービス業	6	3	5	4		
卸売・小売業	19	7	8	17		
建設業	13	0	2	12		
運輸業	7	1	6	2		
医療・福祉	9	2	6	5		
全業種合計	87	26	36	78		

「DI」について

「diffusion index (ディフュージョン・インデックス)」の略で、景気・業況などの動きを示すものです。
 このレポートでは、お客さまからいただいたご回答のうち「良い」「やや良い」の割合から、「やや悪い」「悪い」の割合を引いたものを記載しています。

(例) 業況について ご回答 (5社)

A社	<u>(1) 良い</u>	(2) やや良い	(3) 普通	(4) やや悪い	(5) 悪い
B社	(1) 良い	<u>(2) やや良い</u>	(3) 普通	(4) やや悪い	(5) 悪い
C社	(1) 良い	(2) やや良い	<u>(3) 普通</u>	(4) やや悪い	(5) 悪い
D社	(1) 良い	(2) やや良い	(3) 普通	<u>(4) やや悪い</u>	(5) 悪い
E社	<u>(1) 良い</u>	(2) やや良い	(3) 普通	(4) やや悪い	(5) 悪い

$$DI = \left[\frac{((\text{良い} \times 2 + \text{やや良い} \times 1) \div 5社)}{[60.0\%]} - \frac{((\text{やや悪い} \times 1 + \text{悪い} \times 0) \div 5社)}{[20.0\%]} \right] = 40.0\%$$

全体
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
6.8%	16.8%	10.0%	21.2%	27.7%	6.5%	6.8%	10.9%	4.1%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
4.2%	17.6%	13.4%	16.9%	20.2%	3.3%	8.5%	16.0%	7.5%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	増減	前回	今回	増減			
0.8%	6.7%	5.9%	-1.7%	3.4%	5.1%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	増減	前回	今回	増減			
68.9%	77.0%	8.1%	38.4%	31.6%	-6.8%			

■概況 ※()内はDI値

全業種合計の業況判断DIは前回調査時より10.0%上昇し、良化傾向(16.8%)を維持している。うち、建設業と運輸業では、人手不足による人材確保のためのコスト高などが収益を圧迫し、業況判断DIが前回より下降傾向となった。

不動産業については、消費増税の反動対応による販売価格の低下は継続しているものの、在庫減少により、業況判断DIは前回対比+31.3ポイントと大幅上昇し、良化(+12.5%)に転じている。

売上金額DIについては全体的に良化傾向(27.7%)にあり、前回比では+6.5ポイント増加。DIがマイナスとなったのは卸・小売業のみで、販売価格引下げ等により前回に引き続き下降傾向をたどっている。良化したのは製造業、不動産業、サービス業、運輸業、医療・福祉であり、特に不動産業については前回比+18.8ポイントと大幅上昇し、良化に転じた。

建設業では28.6%と良化傾向ではあるが、前回比-21.4%と減少し、人口減少による民間需要の停滞による行き詰まり感はいなめない。

収益面でも全体的に改善傾向(10.9%)であり、前回比では+4.1ポイントと上昇した。今回悪化傾向にあるのは、同業者競争等を主因に、仕入高を価格転嫁できていない卸・小売業(-18.5%)のみとなっている。ただし、運輸業と医療・福祉については前回対比マイナスポイントとなっており、やや下降傾向がうかがえる。上記の結果、全業種合計での資金繰りは順調(17.6%)に推移し、前回比では+13.4ポイント大幅上昇している。なお、4~6月の収益見通しでは、半数以上が「普通」と予想しており、現状維持を想定しているが、「良い」「やや良い」も21%あり、収益改善を見込んでいる先も少なくない。

国内景気は、円安水準の継続や所得環境の改善を背景に、回復基調を継続していくもの見込まれるが一服感からも、上昇基調は緩やかな曲線をたどっていくものと想定している。

また、借入によって資金調達を行ったのは全体の77.0%となり、前回比+8.1ポイント増加した。

全業種合計の前年同期比売上は全体的に増加(20.2%)しており、前回比では+3.3ポイント上昇した。前年同期比の収益も全体的に増加(16.0%)し、前回比+7.5ポイント増加している。

なお、設備投資を行ったのは全体の31.6%であり、前回比-6.8ポイント低下した。

残業時間は全業種において改善傾向(6.7%)にあり、前回比+5.9ポイント改善している。

加えて、人材についても改善傾向(3.4%)であり、前回比では+5.1ポイント改善した。しかしながら、建設業や運輸業においては人材不足が深刻化してきており、運輸業においては前回比-26.8%と大幅改悪している状況である。

■特別調査	同業者競争の影響、今後3ヶ月(4-6月)の業績見込み
同業者競争の状況	同業者競争の状況は「かわらない」が全体の65%の78社が回答。
売上への影響	68%の81社が「影響なし」で、「やや増加」が18社、「やや減少」が17社。
競争への対策	「販路拡大」が最も多く54社、続いて「サービス・質の向上」が41社で前向きな姿勢。
業績(4-6月見込み)	「良い」「やや良い」が26%、「普通」が57%、「やや悪い」「悪い」が17%
売上額(4-6月見込み)	「良い」「やや良い」が29%、「普通」が57%、「やや悪い」「悪い」が14%
収益(4-6月見込み)	「良い」「やや良い」が21%、「普通」が62%、「やや悪い」「悪い」が17%

業種別の概況・経営上の問題点・当面の対策・その他特別に調査した項目については、次ページ以降に内容を記載しております。

業種別
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
15.6%	26.5%	10.9%	37.5%	47.1%	9.6%	3.1%	17.6%	14.5%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
15.6%	20.6%	5.0%	15.6%	35.3%	19.7%	0.0%	29.4%	29.4%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	増減	前回	今回	増減			
0.0%	5.9%	5.9%	-6.3%	11.8%	18.1%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	増減	前回	今回	増減			
75.0%	78.1%	3.1%	35.7%	21.9%	-13.8%			

■概況 ※()内はDI値

製造業全体の業況判断DIは前回調査時に比べて10.9ポイント上昇し、良化の方向(26.5%)を継続している。売上金額も前回は9.6ポイント上昇し、好調な増加傾向(47.1%)を維持している。それに伴い、収益は前回比14.5ポイントと大幅増加(17.6%)となっている。輸入製品のコスト高などの不安定要素はあるものの、売上高・収益とも増加傾向ではある。

また、原材料高による運転資金増加が続いているが、資金繰りは前回比5.0ポイント上昇し、改善(20.6%)傾向をたどっている。

なお、借入によって資金調達を行ったのは全体の78.1%となっており、前回比+3.1ポイント上昇した。

前年同期比売上は増加傾向(35.3%)で、前回比19.7ポイント増加。同収益についても増加傾向(29.4%)にあり、前回比29.4ポイント増加、前回調査時の横ばいから大幅上昇した。

残業時間は前回調査時の横ばいより、やや改善(5.9%)となった。

人材については、不足(-6.3%)傾向にあった前回から18.1ポイント上昇し、改善(11.8%)となった。

設備投資を行った先は全体の21.9%で、前回35.7%より-13.8ポイントとなり、減少した。

■経営上の問題点

「原材料高」が全体の約38%にあたる13社で問題点と見られているが、前回調査時より1社減っているものの依然として解決には至っていない。「利益幅の縮小」が12社で、これに続く。

■当面の対策

依然、対策としては「販路拡大」が最も多く、18社で重点施策とされている。

「経費節減」が13社、「技術力・営業力の強化」が12社で次点。

■特別調査	同業者競争の影響、今後3ヶ月(4-6月)の業績見込み
同業者競争の状況	85%の先で、同業者競争の状況は依然としてかわらないとしており、悪化傾向を示す先が4社。
売上への影響	売上への影響に関しては、85%にあたる29社で「影響ない」となった。
競争への対策	競争への対策は「販路拡大」が20社、「サービス・質の向上」「経費削減」が各々6社、「該当なし」が5社。
業績(4-6月見込み)	「良い」1社、「やや良い」13社、「普通」14社、「やや悪い」5社、「悪い」1社
売上額(4-6月見込み)	「良い」1社、「やや良い」13社、「普通」13社、「やや悪い」6社、「悪い」1社
収益(4-6月見込み)	「良い」1社、「やや良い」11社、「普通」15社、「やや悪い」7社

業況は前回調査時より10.9ポイントと大幅に上昇し、良化傾向の方向を継続しております。また、原材料高が経営上の問題点とされていますが、原油安により影響が緩やかなものとなり、売上金額や収益は増加傾向にあります。

なお、今後の業績・売上額・収益の各見込み(4月～6月)については「やや良い」と「普通」がほぼ同数で大半を占めており、業況の好調を維持していく方向を示唆しております。

業種別
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
-18.8%	12.5%	31.3%	0.0%	18.8%	18.8%	-18.8%	0.0%	18.8%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
-6.3%	12.5%	18.8%	-6.3%	25.0%	31.3%	-6.3%	6.3%	12.6%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	増減	前回	今回	増減			
6.3%	6.3%	-0.1%	0.0%	6.3%	6.3%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	増減	前回	今回	増減			
61.5%	57.1%	-4.4%	23.1%	13.3%	-9.8%			

■概況 ※()内はDI値

不動産業全体の業況判断DIは良化(12.5%)に転じ、前回調査時より31.3%と大幅に上昇した。売上金額についても良化(18.8%)となり、前回調査時の横ばいから大幅上昇している。また、消費税後の反動に対応するための販売価の低下は依然として継続しているものの、収益面は横ばい(0.0%)となり、前回は18.8ポイントの上昇となっている。

また、資金繰りも良化傾向(12.5%)にあり、前回は18.8ポイント上昇した。

なお、借入によって資金調達を行った先は全体の57.1%であり、前回は-4.4ポイント減少している。

加えて、前年同期比売上も増加傾向(25.0%)に転じ、前回は31.3ポイント大幅に上昇している。同収益も増加傾向(6.3%)にあり、こちらは前回は12.6ポイント上昇した。残業時間はやや改善(6.3%)であり、前回とほぼ変わらず。人材不足はやや改善(6.3%)し、前回は6.3ポイント増加している。設備投資は13.3%の先にとどまり、前回は-9.8ポイントの減少となっている。

■経営上の問題点

経営課題としては、「同業者競争の激化」が11社で依然として最も多く、「商圈人口の減少」、「経費の増加」が各々5社と続く。引き続き、消費税後の売価引下げで競争熾烈化が進んでいるものと考えられる。

■当面の対策

対策は「販路拡大」と「技術力・営業力強化」が7社、「情報力の強化」「宣伝・広告の強化」の6社など、人的努力が焦点となっている。

■特別調査	同業者競争の影響、今後3ヶ月(4-6月)の業績見込み
同業者競争の状況	75%の先で同業者競争の状況は「かわらない」との回答しており、依然厳しい状況が続く。
売上への影響	12社で売上に「影響ない」となっている。
競争への対策	「サービス・質の向上」「販路拡大」が各々5社、「経費削減」が3社、「該当なし」が4社。
業績(4-6月見込み)	「良い」1社、「普通」14社、「やや悪い」1社
売上額(4-6月見込み)	「良い」1社、「やや良い」1社、「普通」13社、「やや悪い」1社
収益(4-6月見込み)	「良い」1社、「普通」13社、「やや悪い」2社

消費税の反動に対応するための販売価格の低下は継続しているものの、在庫減少により、業況・収益の状況ともに前回調査時の悪化より良化に転じております。依然として、他社との競争が熾烈な状況は継続しておりますが、売上への影響はないとの回答が大半を占め、収益圧迫への影響度は少なくなっております。一方、業績・売上額・収益の見込みは大半が「普通」となっており、悲観的な予想も少なくなっています。

業種別
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
44.4%	44.4%	0.0%	22.2%	33.3%	11.1%	-22.2%	0.0%	22.2%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
0.0%	44.4%	44.4%	0.0%	33.3%	33.3%	-22.2%	-11.1%	11.1%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	増減	前回	今回	増減			
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	増減	前回	今回	増減			
50.0%	66.7%	16.7%	42.9%	55.6%	12.7%			

■概況 ※()内はDI値

医療・福祉を除くサービス業の業況判断DIは、引き続き良化傾向(44.4%)にあるが、前回比0.0ポイントと上昇基調は横ばい。売上金額も増加(33.3%)となり、前回比+11.1ポイントの上昇となった。一方、原油高等の影響による材料価格DIは前回同様に-22.2%であり、高止まりしている。また、収益面は悪化傾向から脱却して横ばい(0.0%)となり、前回比+11.1ポイント上昇している。これらの結果、資金繰りは前回の横ばいから大幅上昇し、良化(44.4%)に転じた。

また、借入によって資金調達を行った先は全体の66.7%であり、前回比16.7ポイント上昇した。

前年同期比売上は増加(33.3%)し、前回比+33.3ポイントと大幅に上昇している。

同収益は依然悪化傾向(-11.1%)ではあるが、前回比22.2ポイント上昇した。

残業時間は現状維持(±0.0%)で、前回比±0ポイント、人材不足は普通(0.0%)であり、前回比±0.0ポイントと横ばいの状況で推移している。

設備投資を行った先は全体の55.6%で、前回より+12.7ポイント増加した。

■経営上の問題点

「同業者競争の激化」が9社中5社で依然として問題視されており、「利益幅の減少」が3社で問題認識されている

■当面の対策

対策としては「経費節減」が5社で最も多く、「技術力・営業力強化」「宣伝・広告の強化」が続き、前回最も多かった「販路拡大」は2社となり、人的努力を対策とする先が増加した。

■特別調査	同業者競争の影響、今後3ヶ月(4-6月)の業績見込み
同業者競争の状況	「やや増加した」と「かわらない」が各々4社。
売上への影響	売上への影響は、66%の6社で「影響ない」と回答。
競争への対策	「サービス・質の向上」が5社と最も多く、続いて「販路拡大」が2社、「価格引下げ」「経費削減」が各々1社
業績(4-6月見込み)	「良い」1社、「やや良い」1社、「普通」7社
売上額(4-6月見込み)	「やや良い」2社、「普通」7社
収益(4-6月見込み)	「やや良い」2社、「普通」7社

業況、収益の状況ともに引き続き好調となっております。

ただし、同業者競争の激化は依然として続いており、技術力や家業力、宣伝・広告の強化を図るといった人的努力を当面の対策として取組む姿勢が見られ、販路拡大といった攻めの姿勢から経費節減や人的努力の強化をする先が多くみられました。

4~6月の業績予想・売上は「普通」が大半を占めており、現状維持が見込まれています。

業種別
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
-24.1%	-22.2%	1.9%	-10.3%	-11.1%	-0.8%	-24.1%	-18.5%	5.6%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
-3.4%	0.0%	3.4%	6.9%	-25.9%	-32.8%	-3.4%	-7.4%	-4.0%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	増減	前回	今回	増減			
6.9%	14.8%	7.9%	3.4%	7.4%	4.0%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	増減	前回	今回	増減			
51.9%	73.1%	21.2%	28.6%	32.0%	3.4%			

■概況 ※()内はDI値

卸売・小売業全体の業況判断DIは悪化傾向(-22.2%)を継続しているが、前回調査時より若干改善し1.9ポイント上昇した。販路拡大による価格競争が続いており、同業者間の競争が激化している。

売上金額は前回と同様に減少(-11.1%)し、前回は-0.8ポイント下降している。

仕入価格が依然高いため、材料の事前確保により在庫が増えていると見られる一方で、販売価格は価格に転嫁できておらず、利益幅は減少傾向にある。

その中で収益は減少(-18.5%)傾向を継続しているが、前回は5.6ポイントと改善している。

なお、借入によって資金調達を行った先は全体の73.1%となり、前回は21.2ポイント増加した。

前年同期比売上は減少(-25.9%)に転じ、前回は-32.8ポイントと大幅に減少した。

同収益は悪化傾向(-7.4%)で、前回は-4.0ポイント下降した。

残業時間はやや改善(14.8%)し、前回は7.9ポイント増加、人材不足も改善(7.4%)し、前回は+4.0ポイント改善した。

設備投資は73.1%の先となり、前回は+21.2ポイントの増加となっている。

■経営上の問題点

「同業者競争の激化」が13社で最も多く、「利益幅の縮小」と「材料高」が11社でこれに続く。

■当面の対策

「販路拡大」と「経費節減」が最も多い対策で、27社中14社で重点施策とされている。

「資金繰り安定」が9社、「商品性の拡大」が8社と続く。

■特別調査	同業者競争の影響、今後3ヶ月(4-6月)の業績見込み
同業者競争の状況	「かわらない」が11社である一方、「やや増加した」も11社で、同業者競争の状況はやや増加傾向にある。
売上への影響	「影響ない」は9社、「やや増加」8社、「やや減少」が9社と影響は二分している。
競争への対策	最も多かったのが「販路拡大」で16社、続いて「サービス・質の向上」が10社。
業績(4-6月見込み)	「やや良い」6社、「普通」15社、「やや悪い」6社
売上額(4-6月見込み)	「やや良い」8社、「普通」14社、「やや悪い」5社
収益(4-6月見込み)	「やや良い」5社、「普通」15社、「やや悪い」6社、「悪い」1社

円安等による仕入価格高が続いており、同業者競争の激化等により、その影響を販売価格に転嫁できていないため、収益面が悪化傾向が継続しています。

販路拡大の傾向が強いため、今後も同業者間の価格競争熾烈化が予想されます。

4~6月の業績・売上・収益見込みは大半が「普通」であり、現状維持が見込まれています。

業種別
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
42.9%	28.6%	-14.3%	50.0%	28.6%	-21.4%	7.1%	7.1%	0.0%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
-14.3%	28.6%	42.9%	35.7%	14.3%	-21.4%	35.7%	35.7%	0.0%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	増減	前回	今回	増減			
-7.1%	0.0%	7.1%	0.0%	-14.3%	-14.3%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	増減	前回	今回	増減			
92.3%	100.0%	7.7%	15.4%	14.3%	-1.1%			

■概況 ※()内はDI値

建設業全体の業況判断DIは良化傾向(28.6%)を継続しているが、前回調査時より-14.3ポイント下降した。売上金額も増加傾向(28.6%)であるが、前回は-21.4ポイントと減少している。受注残高、施工高は増加幅は減少傾向にあるが、工事自体の請負価格は増加傾向(7.1%)に転じた。資金繰りは前回調査時はやや悪い(-14.3%)状況であったが、受注高の減少から資金調達の必要性が低くなったこともあいまって、順調(28.6%)に転じた。また、収益はやや改善(7.1%)と、前回と同水準を維持している。

上記の状況から、借入によって資金調達を行った先は全先であり、前回は+7.7ポイント増加した。

前年同期比売上は増加傾向(14.3%)であるが、前回は-21.4ポイント下降している。同収益も増加傾向(35.7%)で、前回は±0ポイントで止まっている。残業時間は横ばい(0.0%)状況となり、前回は+7.1ポイントと改善している。人材不足については前回の横ばいから悪化(-14.3%)に転じ、前回は-14.3ポイント下降しており、「人手不足」を課題としている先が散見される。なお、設備投資をしたのは14.3%の先となっており、前回は-1.1ポイント減少した。

■経営上の問題点

「原材料高」が9社で最も多く、「人材不足」が6社と続く。「経費の増加」も5社あり、人手不足にともなう人件費の上昇等企業のコスト負担を問題視している。

■当面の対策

依然として「人材確保」が7社で最も多い対策となっており、「販路拡大」「技術力・営業力強化」が6社と続いた。「経費節減」が5社、「資金繰り安定」が4社と続く。

■特別調査	同業者競争の影響、今後3ヶ月(4-6月)の業績見込み
同業者競争の状況	71%の先が同業者競争の状況は「かわらない」と回答。
売上への影響	競争の状況が「かわらない」ことに影響されるよう、売上の影響は71%が「影響ない」と回答。
競争への対策	「販路拡大」と「サービス・質の向上」が各々6社。
業績(4-6月見込み)	「やや良い」5社、「普通」6社、「やや悪い」3社。
売上額(4-6月見込み)	「やや良い」5社、「普通」8社、「やや悪い」1社。
収益(4-6月見込み)	「やや良い」3社、「普通」10社、「やや悪い」1社。

業況は良化傾向を継続しておりますが、円安の影響による原材料高に加えて、人口減少に伴う需要の減少から、受注残高や施行高が減少傾向にあり、収益は横ばい状態、売上金額の増加傾向は下降気味となってきております。引き続き人手不足は問題視されており、人材確保の為のコスト負担が収益増加の足かせとなっております。4~6月の業績・売上額・収益の各見込みでは全社が「普通」か「やや良い」としており、緩やかな回復基調を想定しております。

平成27年4月

運輸業

対象先 8 | 回答先 8 | 回答率 100.0%

業種別
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
42.9%	37.5%	-5.4%	42.9%	62.5%	19.6%	57.1%	50.0%	-7.1%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
28.6%	50.0%	21.4%	71.4%	62.5%	-8.9%	85.7%	62.5%	-23.2%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	増減	前回	今回	増減			
-14.3%	12.5%	26.8%	14.3%	-12.5%	-26.8%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	増減	前回	今回	増減			
66.7%	87.5%	20.8%	66.7%	75.0%	8.3%			

■概況 ※()内はDI値

運輸業全体の業況判断DIは良化傾向(37.5%)にあるが、前回調査時より-5.4ポイント下降した。売上金額は増加傾向(62.5%)を維持しており、前回は+19.6ポイントと大幅上昇している。また、原油価格下降により燃料価格が改善(25.0%)しており、前回は+10.7ポイント上昇したが、人手不足の件数高が収益を圧迫し、収益面では改善(50.0%)したが、前回は-7.1ポイント下降している。資金繰りは改善傾向(50.0%)であり、前回は+21.4ポイント上昇した。

なお、借入によって資金調達を行った先は全体の87.5%であり、前回は+20.8ポイント増加した。

前年同期比売上は増加傾向(62.5%)で、前回は-8.9ポイント下降した。同収益も増加傾向(62.5%)であるが、前回は-23.2ポイントと大幅に下降した。残業時間はやや減少(+12.5%)に転じ、前回は26.8ポイント改善した。また人材不足は改悪(-12.5%)であり、前回は-26.8ポイント大幅下降している。加えて87.5%の先で設備投資を行っており、前回は20.8ポイント増加した。

■経営上の問題点

「同業者競争の激化」が5社で問題点と見られており、最も多い。前回最も多かった「料金価格」は2社に止まった。

■当面の対策

対策としては前回調査時と同じく「人材確保」が多く、7社で重点施策とされている。「社員教育」も4社と、人材確保と人材教育といった人的問題が顕著となっている。

■特別調査	同業者競争の影響、今後3ヶ月(4-6月)の業績見込み
同業者競争の状況	8社中5社が「やや増加した」と回答しており、「かわらない」が3社。
売上への影響	売上への影響は「かわらない」が5社、「やや増加した」が3社。
競争への対策	「販路拡大」が4社で最も多い、続いて「サービス・質の向上」が3社。
業績(4-6月見込み)	「やや良い」2社、「普通」5社、「やや悪い」1社
売上額(4-6月見込み)	「やや良い」2社、「普通」6社
収益(4-6月見込み)	「やや良い」2社、「やや悪い」6社

前回調査時に続き、業況、売上ともに良化傾向がみられますが、人手不足による件数高等により収益面では依然良化傾向ではありますが、前回よりも若干低迷してきております。同業者競争は激化しており、社員教育の徹底による技術・サービスの向上による差別化に加え、人手不足による人材確保は重要課題であり、人手を確保して稼働率を上げることが収益向上の施策となっている。

4~6月の業績・売上額・収益見込みは「普通」が多く、現状維持が見込まれます。

平成27年4月

医療・福祉

対象先 11 | 回答先 11 | 回答率 100.0%

業種別
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
0.0%	36.4%	36.4%	36.4%	45.5%	9.1%	9.1%	0.0%	-9.1%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
18.2%	0.0%	-18.2%	36.4%	45.5%	9.1%	27.3%	9.1%	-18.2%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	増減	前回	今回	増減			
0.0%	0.0%	0.0%	-18.2%	0.0%	18.2%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	増減	前回	今回	増減			
90.0%	81.8%	-8.2%	80.0%	54.5%	-25.5%			

■概況 ※()内はDI値

医療・福祉分野の業況判断DIは良化傾向(36.4%)であり、前回調査時より+36.4ポイント大幅上昇した。売上金額も増加傾向(45.5%)にあり、前回比では+9.1ポイント増加している。ベッド稼働も増加傾向(27.3%)で、前回比は9.1ポイント上昇、一方で通院者数は増加傾向(18.2%)ながらも、前回比は-9.1ポイント減少となっている。これらの結果、収益では横ばい(0.0%)で、前回比では-9.1ポイント下降した。また、資金繰りも横ばい(0.0%)で、前回比-18.2ポイント下降している。

なお、借入によって資金調達を行った先は全体の81.8%であり、前回比-8.2ポイント減少している。

前年同期比売上は増加傾向(45.5%)となり、前回比9.1ポイント増加した。同収益も増加傾向(9.1%)ながら、前回比では-18.2ポイント下降している。残業時間は普通(0.0%)で、前回比と変わりなし。人材面では人材不足から普通(0.0%)となり、前回比+18.2ポイント改善した。加えて54.5%の先で設備投資を行っており、前回比-25.5ポイント減少した。

■経営上の問題点

「同業者競争の激化」「人件費の増加」が各4先で課題とされている。他に「人手不足」「経費の増加」「商圏人口の減少」が各3先あり、課題は多岐にわたっている。

■当面の対策

対策としては「人材確保」が9先で重点施策とされ、引き続き人的対応に主眼が置かれている。「経費削減」の6先、「情報力の強化」5先がこれに続く。

■特別調査	同業者競争の影響、今後3ヶ月(4-6月)の業績見込み
同業者競争の状況	「かわらない」が81%の9社となっているが、依然として競争は激化している状況。
売上への影響	10先で「影響ない」との回答、1社が「やや減少」。
競争への対策	「サービス・質の向上」が6社で、続いて「経費削減」が4社。
業績(4-6月見込み)	「やや良い」1先、「普通」7先、「やや悪い」3先
売上額(4-6月見込み)	「やや良い」1先、「普通」7先、「やや悪い」3先
収益(4-6月見込み)	「普通」8先、「やや悪い」3先

業況・売上とも堅実に推移しており、設備投資や借入金利用の面でも積極的な状況は継続しています。しかしながら、人材の確保は深刻な状況で、人材確保のために人件費の増加が課題となっております。4~6月の業績・売上額・収益見込みは「普通」が大半となっており、好調ながらも楽観視はしておらず、現状維持が見込まれます。